

## 資料 3. 主要な活動の記録（年度別）

### 平成 20 年度以降

通常のシステム運用管理（問い合わせ対応、利用者登録、ハードウェア・ソフトウェア保守、バックアップ等）に加えて、下記のような活動を実施した。

#### 平成 20 年度(2008 年度)

- ・ UMIN20 周年記念行事（記念式典、記念講演会、記念パーティ）を開催した。⇒ <https://www.umin.ac.jp/umin20/>
- ・ 国立大学法人化時（平成 16 年 4 月 1 日）に廃止となった大学病院衛星医療情報ネットワーク（MINCS=Medical Information Network by Communications Satellite for University Hospitals）の代わりとなるインターネット会議システム（University hospital Medical Internet Conference System）の導入を行い、運用を開始した。⇒<https://www.umin.ac.jp/umics/>
- ・ 事務小委員会で、法人化後の組織・機構の改編に伴う役職指定アドレスの見直しを行い、新たな役職 ID の発行、メーリングリストへの追加を行った。
- ・ インターネット技術の成熟化に伴い UMIN 技術小委員会を廃止した。

#### 平成 21 年度(2009 年度)

- ・ INDICE Standard において、CDISC 標準による臨床研究の受付を開始した。第 1 件目として、福島県立医科大学附属病院をクライアント側として臨床研究を開始した。CDISC 標準を用いて、実際の臨床研究を実施したのは世界初である。CDISC 標準による臨床研究の推進を目指して、必要な情報提供、説明会を実施した。⇒<https://www.umin.ac.jp/indice/>
- ・ 会員制ホームページサービス（OASIS、ISLET）で、Wiki、BBS、Blog の提供を開始した。⇒ <https://www.umin.ac.jp/oasis/>、 <https://www.umin.ac.jp/islet/>
- ・ UMIN ID を用いたシングルサインオンに関する共同研究を開始した。認証技術としては、Security Assertion Markup Language（SAML）技術を採用した。⇒<https://www.umin.ac.jp/sso/>
- ・ UMIN Web メールシステムで、S/MIME を用いた暗号メールシステムの運用を開始した。⇒ [https://www.umin.ac.jp/web\\_mail\\_key/](https://www.umin.ac.jp/web_mail_key/)

#### 平成 22 年度(2010 年度)

- ・ EPOC の最小限度の機能に絞った簡易版 EPOC（Minimum EPOC）の運用（利用受付）を開始した。実際のデータ入力開始は、平成 23 年 4 月 1 日からとした。データ入力の手間が減って運用が容易になるが、一方で集積するデータの量が減少するために、データを用いた評価の範囲も限定される。大学病院・大規模病院の運用するプログラムでは、Standard EPOC の利用を、中小規模病院の運用するプログラムでは、Minimum EPOC の利用を想定している。⇒[http://epoc.umin.ac.jp/minimum\\_index.html](http://epoc.umin.ac.jp/minimum_index.html)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金基盤研究 A「クラウドコンピューティングによる汎用医学研究データ収集システム」を獲得し、クラウド版の INDICE の開発を開始した。⇒<https://www.umin.ac.jp/indice/cloud.html>

・外科系学会の専門医症例申請情報システムである NCD (National Clinical Database) の運用を開始した。

⇒<https://www.ncd.or.jp/>

・先天異常データベースの運用を開始した。⇒<https://center5.umin.ac.jp/cadb/>

### 平成 23 年度(2011 年度)

・UMIN 情報システムのリプレースを実施した。

・UMIN 利用登録者情報(所属機関等)の年度毎の更新の義務化を行った。従来は、利用登録者から自主的な申請がないと利用登録情報の更新がなされなかったため、利用登録者情報が古いままのことが多かった。

・UMIN ホームページ調査委員会(各地区より 1 名)を設置した。誹謗中傷書き込み等のクレームの判断について、UMIN センターだけで行うのではなく、ホームページ調査委員会で判断するようしくみとした。

### 平成 24 年度(2012 年度)

・国立大学病院事務系システムについて、国立大学病院 VPN への移行を完了した。

### 平成 25 年度(2013 年度)

・UMIN 症例データレポジトリ(UMIN 症例データシェアリングシステムと改称)の運用を開始した。同時に記者発表を行い、NHK や大手新聞等(読売、朝日、毎日、日経等)で報道された。⇒  
<https://www.umin.ac.jp/icds/index-j.html>

・厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「大学の連携による職種・レベル別に対応した臨床研究・治験の e-Learning システムを展開する研究」により、フリーウェアによる e ラーニングシステムの構築を行い、継続的にサービスの提供を開始した。

### 平成 26 年度(2014 年度)

・国立大学病院運営情報 Q&A システムの開発・運用開始を行った。国立大学病院運営情報 Q&A システムは、UMIN 事務系役職指定メーリングリスト等で、ある大学病院から他の大学病院へ、照会された事項について、照会内容と回答の集計結果をデータベース化して検索できるようにしたものである。各国立大学病院の業務を実施する上で、他大学の状況を参考にすることができるため、有用な役割を果たしている。

### 平成 27 年度(2015 年度)

・UMIN にはまとまった形での利用規約がなかったが、UMIN と利用者との適切な関係を規定するために UMIN 利用規約の整備を行った。

### 平成 28 年度(2016 年度)

・UMIN 情報システムのリプレースを実施した。

・リプレースのタイミングで、利用者の少なかったオンライン論文投稿・査読システム-JOERS(ジョー

ズ) の運用停止を行った。

### 平成 29 年度(2017 年度)

- ・インターネット医学研究データセンター (INDICE) に、利用者自身が症例報告書システムを構築する機能を追加開発し、これを「INDICE Cloud」と名付けて、運用を開始した。⇒<https://www.umin.ac.jp/indice/cloud.html>
- ・UMIN 臨床試験登録システム (UMIN-CTR) は、日本の臨床試験登録において大きな割合を占めるものとなっているが、登録における利便性向上のため、臨床試験情報の標準規格である CDISC Standards の一部である CTR-XML 規格によるデータ登録を新たにサポートした。⇒<https://www.umin.ac.jp/ctr/index-j.htm>
- ・ホームページ公開サービス (SQUARE/PLAZA) でのセキュリティリスクの軽減のために、すでに更新が停止しているホームページ、または更新を行っていても担当者と連絡がとれない場合に、該当ホームページを外部からアクセス不可能とする対策を開始した。
- ・医療・生物学系電子図書館の演題登録サービス (ELBIS) のサービスを平成 30 年度で中止することを決定した。⇒<https://www.umin.ac.jp/elbis/>

### 平成 30 年度(2018 年度)

- ・オンライン学術集会演題抄録登録システムのサービス中止に対して、日本医学会会長、日本医師会会長名で文書によるサービス継続の要望があり、また本件に関して国会議員等による文部科学省への照会があった。検討の結果、サービスを有償化して、継続することになった。⇒<https://www.umin.ac.jp/elbis/>
- ・新臨床研修システムと卒前臨床実習に対応した新しい EPOC の開発を開始した。新 EPOC は、スマートフォンによる操作を想定しており、ユーザインターフェイスは、従来のものと大幅に異なっている。令和元年度も引き続き開発を行い、令和 2 年度からのサービス提供開始に備えた。⇒<https://pg-epoc.umin.ac.jp/>、<https://cc-epoc.umin.ac.jp/>

### 令和元年度(2019 年度)

- ・UMIN 電子メールサービスは、運営費交付金削減とセキュリティの問題から、従来どおりの形でのサービス継続が困難となっていた。一方、UMIN 運用開始時と異なり、現在では個人で電子メールアドレスを持っていない人がごくまれとなっている。このため、個人利用者 (国立大学病院業務等のアドレス以外) については、メールサービスの提供を止めることを UMIN 協議会で決定し、常置委員会の了承を得た。
- ・新しい EPOC の安全な運用法やデータの適切な利用法を規定した個人情報保護・研究倫理指針を EPOC 運営委員会とともに策定した。⇒<https://pg-epoc.umin.ac.jp/>、<https://cc-epoc.umin.ac.jp/>
- ・オンライン演題登録システムの有償化を実施した。利用学会数が 471 学会 (前年度は 581 学会) に減少したが、想定よりも小幅な減少であり、33,625 千円の利用料金収入を得ることができた。⇒<https://www.umin.ac.jp/elbis/>
- ・東京大学医学部附属病院における UMIN 担当部署の名称を、大学病院医療情報ネットワーク研究センターから、大学病院医療情報ネットワークセンターに変更した。⇒<https://www.umin.ac.jp/>
- ・医療材料データベース (MEDIE) について、順次 UMIN による一括契契約から、契約を希望する国立大学病院による共同契約に切り替えていくことになった。

## 令和 2 年度(2020 年度)

・新型コロナ流行のため、在籍者の半数を在宅勤務体制に移行した。このために在宅勤務用パソコンの購入と貸与、VPN 機器の整備を行った。費用は嵩んだが、6 月頃には円滑に在宅で業務が遂行できる体制が整った。約半数が出勤、残りの半数が在宅勤務で業務を行うことにした。UMIN 運営業務は例年とほぼ同様に遂行することができた。

・利用者の増加と運営費交付金削減に対応するために、既に電子メールアドレスを事前に登録している利用者は、パスワード更新の際に登録済のメールアドレスに送付したコードを 10 分以内に入力すれば、自動でパスワード更新ができるようにシステム開発を行い、実際に運用を開始した。

・新臨床研修ガイドラインとスマートフォン入力に対応した卒後臨床教育評価システム EPOC2（現在の名称は PG-EPOC）の正式運用を開始した。⇒<https://pg-epoc.umin.ac.jp/>

・臨床研究小委員会の設置を行い、小委員長には、東北大学大学院医学研究科医学統計学分野の山口拓洋教授を選任した。UMIN の臨床研究関連システムとして、INDICE スタンダード、INDICE クラウド、臨床試験登録システムがある。またこれらに関連して、臨床研究のデータ仕様の国際標準である CDISC 標準への取り組みも行ってきた。センター長の木内は、かつて東大医学部の疫学・生物学教室に所属し、臨床研究の情報システムを専門に研究していたが、異動してから既に 25 年が経ち、その間に臨床試験学、統計学も大きく変化しているため、同小委員会の設置が必要となった。⇒[https://www.umin.ac.jp/iinkai/clinical\\_research-nontel.htm](https://www.umin.ac.jp/iinkai/clinical_research-nontel.htm)

## 令和 3 年度(2021 年度)

・UMIN 情報システムのリプレースを実施した。

・新型コロナウイルス流行に伴い、オンライン学術集会開催機能（抄録、プレゼンを含む参加者限定の学術集会ホームページ）の必要性が高まっているため、その開発を行い、運用を開始した。またオンラインのプレゼン資料の収集機能の開発も行い、同じく運用を開始した。⇒<https://www.umin.ac.jp/elbis/>

・卒前学生医用オンライン臨床教育評価システム（CC-EPOC）の運用を開始した。⇒<https://cc-epoc.umin.ac.jp/>

・個人用 ID 利用者による電子メールサービスを中止するための一連の作業を実施した。

・UMIN の e ラーニングサービスについて検討するため、UMIN e ラーニング小委員会を設置し、小委員長には、岐阜大学医学教育開発研究センターの藤崎和彦教授が就任した。⇒[https://www.umin.ac.jp/iinkai/e\\_learning-nontel.htm](https://www.umin.ac.jp/iinkai/e_learning-nontel.htm)

・新型コロナの流行により、他の安価で優れたインターネット会議システムの導入が進んだため、UMIN のインターネット会議システム（UMICS）のサービスを終了とした。⇒<https://www.umin.ac.jp/umics/>

## 令和 4 年(2022 年度)

・症例データレポジトリを改造して、UMIN 臨床試験登録システムを利用した研究以外の研究での利用が可能となるようにした。厚生労働省による jRCT の運用が始まっており、jRCT 登録の臨床試験の症例データ登録をできるようにすることが望まれていた。⇒<https://www.umin.ac.jp/icds/index-j.html>

・GPL ライセンスのフリーウェアを用いた L という名称の e ラーニングサービスの運用を開始した。運

用当初は、UMIN ID を持つ人全員を対象とした eラーニングのみを提供できるようにした。特定の UMIN ID を持つ人のみを対象とした eラーニングは後日開発・運用を行うことになった。⇒  
<https://www.umin.ac.jp/l/>

- ・新しい厚生労働省のガイドラインとスマートフォンに対応した歯科臨床研修評価システム DEBUT2 の運用が開始された。

- ・シングルサインオン (Single Sign On) とは、あるサイトの発行する ID で他の複数のサイトの認証を行えるようにする仕組みである。UMIN では、従来、個別の団体の要望等に基づき、UMIN ID によるシングルサインオンサービスを提供してきたが、本年度より、公式のサービスとしての提供を開始した。尚、UMIN ID に対応するパスワードには、一般用パスワードと INDICE 用パスワードがあるが、シングルサインオンサービスは両方のパスワード毎に行っている。現在の主な利用団体は、医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) と National Clinical Database (NCD) である。⇒<https://www.umin.ac.jp/sso/>

- ・ PLAZA、SQUARE サーバでシングルサインオンサービスを利用できるようにした。⇒  
<https://www.umin.ac.jp/sso/>

### 令和 5 年(2023 年度)

- ・ UMIN 電子計算機室の移転の準備を行い、実際に移転作業を実施した。旧 UMIN 電算機室は、建物の耐震強度が不明な古い建物内にあり、地震によって使用不能になる危険性があった。新 UMIN 電算機室は、耐震強度の証明された新しい建物内にあるため、地震により使用不能となることはない。

- ・大学病院医療情報マネジメント部門連絡会議が、医療情報学連合大会内で開催されることになった。これに伴い、同連絡会議内で開催していた UMIN 協議会幹事会・総会を、医療情報学連合大会内で開催することに変更した。

### 令和 6 年(2024 年度)

- ・ UMIN ID には一般用と症例登録用 (INDICE 用) の 2 種類のパスワードがあるが、その共通化を目指し、新規発行分の UMIN ID について、2 種類のパスワードを同一のものに設定できるようにした。

- ・ UMIN ID の固定化 (発行後 1 カ月以降) を実施した。UMIN ID は、ELBIS の演題名・抄録や INDICE の症例登録記録、今後の開発予定の講習会等参加管理システムから、EPOC 系システム (CC-EPOC、PG-EPOC、SP-EPOC) ヘデータを取り込むための ID として利用する方針である。また UMIN 以外の演題登録システム、症例登録システムでも、UMIN ID を活用して、EPOC 系システムヘデータ取り込みができるように提案する予定である。

- ・オンライン演題登録システムにオンライン査読機能と演題評価機能を追加した。⇒  
<https://www.umin.ac.jp/elbis/>

- ・専門研修等のためのオンライン臨床教育評価システム (SP-EPOC) の開発のために、オンライン臨床教育評価のための評価項目、評価基準について、標準的な方法のガイドラインの作成を行った。ガイドラインと併せて評価項目、評価基準を作成すれば、SP-EPOC の利用が可能となる。

- ・ LibreClinica による INDICE サービスの開始を行った。⇒<https://www.umin.ac.jp/indice/LibreClinica.html>